

ペースト二段施肥技術とは

1 プラスチック被覆肥料の現状について

プラスチックを使用した被覆肥料は、徐々に肥料成分が溶け出すことから、例えば春に投入することで、夏場の暑い時期の追肥の手間が省けて省力化できるとともに、作物の生育に応じて肥料成分が溶け出すため無駄が少なく、肥料の投入量も減り、地下水などの水域への栄養分の流出なども抑えられ、環境への負荷も低減できる一方で、使用後の被膜殻がほ場から海洋に流出することによる環境影響が懸念されています。

出典：農林水産省 プラスチック被覆肥料の被膜殻の流出防止について

[プラスチック被覆肥料の被膜殻の流出防止について：農林水産省](#)

2 ペースト二段施肥技術

ペースト二段施肥は、プラスチック被覆肥料の代替の一つとして注目されています。

ペースト肥料（一定の粘性を持たせた高濃度の液状肥料）を植え付けと同時に、苗の脇にノズルで溝を切りながら土中の上段と下段へすじ状に側条施肥する方法です。液状肥料を側条に施用するため、肥料利用効率が高いことや初期の肥効が早く分けつを確保しやすいことが特徴です。

プラスチック被覆とは異なり、施肥深度や上下段の施肥割合を変えることで肥効の発現時期を調節し、追肥不要の一発施肥体系を実現します。

出典：農林水産省 農業新技術_製品・サービス集

[products-332.pdf](#)

（参考）農業MOT研究会

生産現場で経営と技術の視点でものを考え、改善策を生み出して普及させることを目的として、セミナー、ワークショップ開催等を行っている。令和5年度に「ペースト施肥技術プロジェクト」を開始し、令和6年度から本格的に全国の農業関係試験研究機関、普及指導機関等を対象に、委託研究・委託実証を実施。